２０２５年度　事業報告書

２０２５年４月　１日から

２０２６年３月３１日まで

学 校 法 人 大阪城北学園

１．法人の概要

名　称　　学校法人　大阪城北学園（昭和５９年８月２９日法人設立）
代表者　　理事長　山口　義人
住　所　　吹田市藤が丘町９番２３号
電　話　　０６－６３８５－４８４４
ＦＡＸ　　０６－６３８５－４８５０
設置する学校
　　住　所　吹田市藤が丘町９番２３号
　　名　称　藤ヶ丘幼稚園
役　員　理事　６名　　監事　２名　評議員　７名
理事会　　３回開催　　評議員会　　２回開催
職　員　　１３名

２．事業の概要

（　藤ヶ丘幼稚園　）

≪教育方針≫

キリスト教保育、自由保育の２本の柱を土台とし、自律心を育てることを目標にしている

≪教育内容≫

神の愛と人の愛を深く知り、体験でき、さらに、さまざまな機会を通して自律心を育てる。きびしい現実の社会生活の中で、確たる人生の土台の形成を目指している。

2025年度の歳児別、利用定員数、予定利用者数及び予定クラス数（5/1）

年齢	認可クラス数	予定クラス数	1号（予定）		2号・3号（予定）				利用定員合計	利用者数合計
			利用定員数	教育標準利用者数	利用定員数	教育標準利用者数	短時間利用者数	保育認定利用者計		
5歳児	1	1		12						12
4歳児	1	1		17						17
3歳児	1	1		18						18
満3歳児				3						3
合　計	3	3		50						50

≪保育時間≫

月・火・木・金曜日　午前９時～午後２時
水曜日　　午前９時～午前１１時３０分
日曜日　　午前９時２０分～午前１０時２０分
土曜日　　休園

≪諸費用≫

項　　目	金　　額	
入園受入準備金	60,000 円	入園手続き時
保育充実費（月額）	満３歳児　4,300 円 ３歳児　2,300 円 ４歳児　2,300 円 ５歳児　2,300 円	
入園用品代	16,300 円	

※その他選択制給食代は希望者より実費徴収あり。

≪預り保育内容及び費用≫

【時間枠と利用料金】

早朝保育	8 時 30 分～9 時	100 円
通常保育	14 時～15 時	200 円
	14 時～16 時 30 分	500 円
	16 時 30 分～18 時	30 分毎／100 円
午前保育	11 時 30 分～15 時	600 円
	11 時 30 分～16 時 30 分	900 円
	16 時 30 分～18 時	30 分毎／100 円

※午後３時以降の預かり保育にはおやつを提供（料金含む）。

≪行事実施状況≫

自らを表現し、やってみようとする意欲、自主性・自信を育てるため、クリスマス、子どもの日、さんびかを歌い礼拝、遠足、運動会、生活発表会、プール、移動動物園など

≪施設関係≫

園地面積　８１１．６㎡　　運動場面積　４１３．０㎡
園舎　　２７９．９㎡　　園外園地　　４３６．６１㎡

≪設備関係≫

防犯対策工事、巧技台、デジタルカメラ、防災用電源、さす又の購入。園外園地に対する擁壁工事及びフェンス設置工事実施。

≪事業報告≫

トランプ大統領によるイランへの軍事行動から２カ月が経過した。ホルムズ海峡を両国が閉鎖することになり、世界中で、原油供給が滞り、インフレが加速している。このことによりガソリン不足、原油の供給が止まってプラスチック危機が起きている。私たちの周りのあらゆる場面で供給不足から、商品・製品の値上げがあり、物価の上昇が堅調になってきているが、世界の平和と生活の改善を祈りたい。

また、日本型雇用慣行として、「終身雇用、年功序列、企業別労働組合」が挙げ

られているが、日経新聞が主要企業へのアンケートを実施し、その回答から中途採用が初めて５割を超えるとの報道があった。ＡＩの活用で、人手不足の解消が進んでいるが、仕事内容の変化から、業種によっては余剰人員が増加している。ＡＩ活用は益々進むようであるが、幼児教育は人を相手に行うものであるため、機械的にはなせないものであることをしっかりと踏まえつつ保育にあたりたい。

幼児教育・保育に携わる人材においては、養成校からの新規採用はほぼなくなり、就職フェアーに参加しても、当日面接希望のアポイントが取れず、学生は会場では雰囲気を感じとるだけで、一歩も二歩も様子を見ることが多くなってきている。

支援を要する園児が増加しているので、当園もクラス運営を円滑にできるよう、支援に対応できる人材の教育・確保を進めながら学級運営の改善に取り組んでいる。人材確保のためには人材派遣センターの利用も併用しつつ進めている。

２０３２年までの経過措置はあるが、学級の定員が３５名から３０名に変更となる。教室（５３㎡）・運動場面積は変わらないことから、時期を定めて対応することとする。

２０２５年度も保護者の協力を得て、役職員の真摯な努力により着実に運営することができた。

２０２５年４月からの私立学校法の改正に伴い学校法人会計基準も一部変更となったため、２０２５年度より新会計基準に則り処理を行っており、計算書類の並び順等変わっている。

財務面では、事業活動収支計算書より、教育活動収入計が９２，４２１千円（対前年比２７．４６％、７２，５１１千円）、教育活動支出計６４，９６２千円（対前年比６．３２％、６１，０９８千円）、教育活動収支差額２７，４５９千円（前年度１１，４１３千円）、教育活動収支差額比率２９．７１％（前年度１５．７４％）、経常収支差額比率２９．７９％（前年度１５．７６％）の経営状況となった。

また、人件費比率（人件費／教育活動収入計＋教育活動外収入計）は、５７．９３％（前年度６９．６１％）となり、前年度より減少した。

翌年度繰越支払資金は、当年度の保持すべき資金（第４号基本金）の額を相当上回る額の支払資金を保持できているので、資金繰りは問題ない。

３．財務状況

別紙参照

貸借対照表　（単位:円）

資　産　の　部	
科　　目	2025年度
固定資産	41,618,861
流動資産	69,952,431
資産の部合計	111,571,292
負　債　の　部	
科　　目	2025年度
固定負債	4,427,524
流動負債	5,346,440
負債の部合計	9,773,964
純　資　産　の　部	
科　　目	2025年度
基本金	75,845,976
繰越収支差額	25,951,352
純資産の部合計	101,797,328
負債及び純資産の部合計	111,571,292

財産目録　（単位:円）

１．資産総額	111,571,292
Ⅰ固定資産	41,618,861
Ⅱ流動資産	69,952,431
２．負債総額	9,773,964
Ⅰ固定負債	4,427,524
Ⅱ流動負債	5,346,440
３．正味財産	101,797,328

事業活動収支計算書　（単位:円）

科　　目		2025年度
教育活動収支	学生生徒等納付金	1,988,013
	手数料	960,000
	寄付金	14,448,700
	経常費等補助金	69,536,098
	付随事業収入	4,629,620
	雑収入	859,346
	教育活動収入計	92,421,777
	人件費	53,601,027
	教育研究経費	5,257,697
	管理経費	6,103,929
	徴収不能額等	0
	教育活動支出計	64,962,653
	教育活動収支差額	27,459,124
教育活動外収支	受取利息・配当金	110,566
	その他の教育活動外収入	0
	教育外活動収入計	110,566
	借入金等利息	0
	その他の教育活動外支出	0
	教育外活動支出計	0
	教育活動外収支差額	110,566
経常収支差額		27,569,690
特別収支	資産売却差額	0
	その他の特別収入	660,000
	特別収入計	660,000
	資産処分差額	0
	その他の特別支出	1,431,405
	特別支出計	1,431,405
特別収支差額		△ 771,405
基本金組入前当年度収支差額		26,798,285
基本金組入額合計		△ 22,307,940
当年度収支差額		4,490,345
前年度繰越収支差額		21,461,007
基本金取崩		0
翌年度繰越収支差額		25,951,352

（参考）

事業活動収入計	93,192,343
事業活動支出計	66,394,058

資金収支計算書　（単位:円）

科　　目	2025年度
学生生徒等納付金収入	1,988,013
手数料収入	960,000
寄付金収入	14,448,700
補助金収入	70,196,098
資産売却収入	0
付随事業・収益事業収入	4,629,620
受取利息・配当金収入	110,566
雑収入	859,346
借入金等収入	0
前受金収入	0
その他の収入	35,027,287
資金収入調整勘定	△ 3,411,576
前年度繰越支払資金	44,922,142
収入の部合計	169,730,196
人件費支出	51,309,590
教育研究経費支出	4,192,615
管理経費支出	5,819,515
借入金等利息支出	0
借入金等返済支出	0
施設関係支出	21,620,000
設備関係支出	687,940
資産運用支出	595,417
その他の支出	20,614,965
資金支出調整勘定	△ 1,634,091
次年度繰越支払資金	66,524,245
支出の部合計	169,730,196

監　査　報　告　書

2026年　5月　22日

学校法人　大阪城北学園

理事会・評議員会　御中

学校法人　大阪城北学園

監　事　山根良寛

監　事　坂本由美子

私たちは、学校法人大阪城北学園の監事として、私立学校法第５２条及び第５３条に基づいて同学園の２０２５年度（２０２５年４月１日から２０２６年３月３１日まで）における業務及び財産の状況について、理事会その他重要会議に出席するほか、理事長から学校運営の報告を聴取し、重要書類を閲覧し、会計監査人から報告説明を受け、事業報告書及び計算書類等を調査いたしました。

監査の結果、私たちは、同学園の業務及び財産の状況に関して不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実は認められませんでした。

また、財務に関する計算書類は学校法人会計基準に準拠しており、学校法人大阪城北学園の２０２６年３月３１日現在の財務状態及び同日をもって終了する会計年度の経営状況を適正に表示しているものと認めます。

（注）監事山根良寛及び監事坂本由美子とも私立学校法第４６条の規定による。

１．本園の教育目標

※キリスト教精神に基づく保育

子どもは親や保育者に愛され、大切にされることによって自分がかけがえのない存在であることを認識します。神があるがままの私たちを受け入れてくださるように、保育の中でも、子ども一人一人を愛し、尊重し、育んでいきます。

※自由保育

自由保育とは、子どもたちが自らやってみようとする心情や意欲を大切にしながら、遊びを通して発達に必要なことを身につけていくことができるように援助し、幼児の主体性を育んでいく保育です。教師は、子どもが何をしたいのか、そこで何が育っているのか、今、何が必要かをその都度見極め、少しずつ積み上げていけるよう育ちの過程を大切にしながら保育します。子どもたちが自由に遊びこめる時間と空間を確保した自由活動を中心にすることに加え、みんなで集まってひとつの活動をする設定の時間も取り入れながら様々な経験ができるように配慮しています。

２．本年度　重点的に取り組む目標・計画

☆本園の寄付行為にあるように、神に仕える精神を教職員の共通理解として具現化できるように、毎朝の祈祷会や日曜日の礼拝出席などを通して、神様と出会う機会を作る。

☆キリスト教精神に基づく保育、自由保育という教育理念を実現するために、カリュキュラムの検討と作成を行う。毎月、月案と週案を教師全員で検討、確認し、園児の今の姿を十分に把握しながら更に保育の質を高めていく。

☆保護者の意見、要望、ニーズを大切にしながら、共働き化など時代状況に合わせた対応がなされている園であるよう、今後の保育形態（長期休暇の預かり保育や給食の充実）について検討・実施する。

☆減少傾向にある園児獲得の為、ホームページの充実だけでなく、自園の子どもの姿を通し園の特色や保育内容が伝わるよう、園内外の方々に今まで以上に発信する。

☆園児獲得の為に未就園児ひよこ組に繋がる親子教室「さくらんぼ」の充実を重要課題とし取り組んでいく。

☆近年、発生回数の多い災害への備えや防犯対策の強化として、園児の安全を第一に考え、避難通路等の確保に努める。通行しにくい箇所については補修・改修工事を行い、安全に避難できる環境を整えていく。また、作成したマニュアルをもとに、さまざまな災害や緊急事態を想定した訓練を実践していく。災害時には、避難後の安全確保も視野に入れ、必要な備品の準備や使用方法の確認を行うとともに、定期的に避難経路や施設内の安全点検を実施する。

☆AED などを使った職員の救命救急の訓練を行う。

３．評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取組状況
幼稚園の寄付行為及び保育目標の共通理解をする。	２０２５年度は新たな主任を迎え、再度当園の教育理念および保育目標において研修会や教師会で話し合いを行い、共通理解を深めることが出来た。
本園の保育目標を実現するためのカリキュラムの検討	年間、月案、週案を徹底的に検討し、計画を立て、毎月の教師会において相互に確認し合い、振り返りを行っている。 又、昨年に引き続き、有識者の指導の元、自分たちの保育を客観的に見直す機会として公開保育を行った。
幼稚園の状況を踏まえて中・長期的ビジョンと計画を図る。	これまで理事会や学校関係者評価委員会等において、幼稚園に求められる公的使命や地域社会への貢献の一環として、預かり保育の充実について協議・検討を重ねてきた。２０２５年度は、さらなる就労支援を図るため、預かり保育の利用時間を１８時まで延長した。一方で、本格的に就労する保護者にとっては、１８時以降の預かり保育を必要とする場合もあることから、今後は１８時３０分までの延長についても検討するとともに、就労時間や通勤時間等の多様な保護者のニーズに対応するため、早朝の預かり保育についても拡充を検討していく必要がある。 また、未就園児ひよこ組週５日クラスの保護者より就労の為、預かり保育を利用したいとの声があり、就労支援として満３歳児に満たない未就園児に対してどのようにしていくか今後検討していく必要がある。 開設以来、幼稚園では保護者の手作りお弁当を大切にし、その意義を踏まえて取り組んできたが、近年、就労や様々な状況に置かれている保護者の負担軽減の為、給食の提供を開始してきた。さらなる給食内容の充実を図るため、２０２５年度からは週４日の選択制給食を導入し、お弁当、丼もの、パンとスープ、調理パンと野菜ジュースと栄養面にも考慮したメニューの提供を始めることができた。その成果として給食の利用者も増加している。今後は子どもたちや保護者の意見を聴きながら、さらに子

	どもたちが食べやすいメニューを検討し、充実させていく必要がある。 　また、保護者のニーズや園児確保・人材確保の観点から車での登園・出勤を希望する方が多いことを踏まえ、これまで検討課題であった駐車場の確保であるが、大阪城北教会のご厚意により、隣接する土地を借地として駐車場及び遊び場として使用できることとなり、現在工事を進めている。今後は、利用方法や安全対策について十分に検討し、保護者や教員が安心して利用できる環境を整えていくことが課題となる。
園児獲得	これまで個人情報保護法の観点で子どもの顔を見せることが出来なかったが、アンケート調査を行い保護者の承諾を得て、子どもたちの活動の様子や表情を見ることが出来るホームページを数年前から作成してきた。２０２６年度にはさらにホームページを再リニューアルし、園の教育・保育の様子がより分かりやすく伝わるよう情報発信の充実を図った。その効果も表れ、ホームページを見た方からの問い合わせが増えるなど、園への関心の高まりが見られ、園児獲得につながるようになってきている。また、幼稚園での園児の様子をホームページで発信するだけでなく、これまで幼稚園の存在を知らないご家庭に当園を周知していただくため、親子教室や未就園児クラスの案内を作成し、地域にポスティングを行った。今度も地域への情報発信を積極的に行い、当園の教育・保育の魅力を知っていただく機会を増やしていく必要がある。 　さらに、園児の獲得につなげるための取り組みとして、２０２５年度は専属のアドバイザー・サポーターの協力を得て、子育てに関するミニ講座を開催するなど、子育て支援を重要な取り組みとして位置づけ、その内容の充実を図った。その結果、親子教室「さくらんぼ組」の利用者も増加している。 　今後もこうした取り組みを継続・充実させ、地域の子育て支援の場として貢献するとともに、地域の子育て世帯から選ばれる園を目指し、園児の獲得につなげていきたい。

安全管理	危機管理をより一層徹底し、地震・自然災害等どのような事態が生じても、適切に対応できるようにAEDの設置、救命救急講習会の実施など日頃の訓練を重ねている。 　又、設置されているセキュリティシステムの作動確認を行うとともに、防犯体制の強化と安全対策として、防犯カメラの設置、東側避難出口及び園庭フェンスの修繕等をおこなってきた。２０２５年度は園舎裏側からの侵入防止工事を実施し、さらなる安全確保に努めた。今後はたんぽぽ裏の避難通路が狭く、緊急時の避難が困難な状況にあることから、園児が安全かつ速やかに避難できるよう、避難通路の確保を急務として進めていく予定である。 　又、災害に備えて非常用電源の購入、及び使用方法と備蓄（非常食）の確認を行った。非常時において全園児・全教師に状況を速やかに知らせる方法が検討課題であったが、トランシーバーを各保育室に設置し、一斉伝達が出来るようになり、避難しながらも園内の状況を把握・伝達できる環設備を整えた。一方で、トランシーバーの適切な使用方法や、緊急時に的確な指示を出す役割の重要性も改めて感じている。今後も、実際の緊急事態を想定した訓練を継続的に実施し、全教職員が迅速かつ適切に対応できる危機管理体制のさらなる充実を図っていく。
保護者のニーズの把握に務め、要望に適切に対応する。	保護者会を中心に機会ある毎に話し合い、意見を聞く。出された意見に対して必要なことは園の考え方を示し、改善すべきことについては改善するように努める。

４．幼稚園評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

　新しい教職員を迎える中で、改めて本園の設立目的・理念についての共通理解を持つことができるよう努めている。教職員一人一人が与えられた使命を自覚し、互いにモチベーションを高め、子どもたちに仕える心を大切にしている。又、それぞれがキリスト教の精神を実践することを通して、教職員同士の共通理解を深め、共同体としての意識を育むことができている。

　これまで検討課題としてあげられていた幼稚園の環境面については、施設や設備の整備が進み、一定の改善が図られてきたことは評価できるが、新しい教職員を迎えた今、これまで整えてきた環境を生かし、さらに質の高い保育を実践していくことが今後の課題である。その取り組みの一つとして、昨年度に引き続き公開保育を実施することがで

きた。公開保育に向けての準備をしていく過程で、日ごろの自分たちの保育を見直し、考える機会となった。今後も外部の方からの視点を取り入れる機会を今後も継続することで、教職員自身の学びを深めるとともに、園全体の質の向上につなげていきたい。

また、より良い人材を確保することが難しい状況が続く中、採用した人材を園の大切な財産として育てていくことを意識し、研修や職員間の学び合いを充実させながら、教職員一人一人の成長を支えてく必要がある。

幼稚園・小学校連携については、２０２３年度より、年長児の小学校訪問及び小学校教諭・幼稚園教諭懇談会を実施してきた。これまで小学校側から本園のみこのような個別対応を行うことについての意見があり、実施について検討される状況にあった。しかし、２０２５年度は小学校校長自ら懇談会に参加してくださり、幼稚園と小学校が情報を共有し、連携することの重要性を改めて認識していただく機会となった。懇談会を通して、小学校の現状や課題を知るとともに、幼稚園での役割を改めて認識することができた。また、小学校訪問は子どもたちにとって小学校生活への期待を持つことができる有意義な活動となっている。今後は子どもたちの円滑な就学につなげるためにも、小学校との情報共有や引継ぎ、教職員同士の懇談会を継続して実施し、幼稚園と小学校との連携を深めていきたい。

これまでの検討課題であった預かり保育時間の拡大・選択制給食の充実・駐車場の確保など前進していることは評価できると考える。また、未就園児への取り組みにおいては、２歳児ひよこ組に加え、１・２歳児さくらんぼ教室・０歳児さくらんぼプレの活動を充実させることができた。これらの取り組みを通して、子育て家庭への支援を広げ、地域とのかかわりを深めることができたことは評価できる。

５．今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
園児募集	少子化時代の中園児募集には大きな努力を要する。本園が存続していくためには、日常の保育のより一層の充実に努め、保護者の理解を得ることが最善の道であり、保護者のニーズに応えるためのさらなる工夫と努力をする。 ・預かり保育充実（早朝・長時間・長期休暇）の為、より良き人材を確保する。 又、就労支援として満３歳に満たないひよこ組週５日クラスの預かりについて検討していく必要がある。 ・お弁当の良さを大切にしながらも、保護者負担の軽減として開始した選択制給食であるが、給食のさらなる充実とニーズの把握に努め、保護者負担を軽減できるように努めていく。 ・保護者の信頼を獲得し、安心して送り出してくれる園となるため、保育が充実したものとなるよう努めるとともに保護者

	へのサポートが出来る体制を強化していく。 ・園児獲得時期が低年齢化している現在、未就園児（ひよこ組）及び親子さくらんぼ教室を充実させ園児獲得へとつなげていけるよう努力する。
安全管理	危機管理をより一層徹底し、地震・自然災害等どのような事態が生じても、対応できるように日頃の訓練をさらに重ね、協議、検討する。セキュリティ・システム（防犯・防火）の設置、防犯システムの強化は行っているが、安全対策として出来ることを常に検討していく。 近年、職場において心の問題を抱える事例が増えてきていることを踏まえ、職員の心のケアも重要課題としいく。
子育て支援	親子教室を開催し、親子で遊べる場を提供すると共に、子育てから生じる悩みや苦悩を分かち合えるように、保護者との会話を大切に相談を受け付ける体制を整える。 そのためには未就園児クラスの体制を強化する必要があるため、今後、教師の配置や保育内容についても研修・検討を続ける。 未就園児や長期休暇を含む預かり保育の充実の為にさらなる人材確保と準備を進めていく必要がある。
園に対する保護者のニーズと 満足度の把握	子育て中の保護者が必要としているニーズを様々な方法で把握し、現代社会において求められている幼稚園の使命と役割を理解し、奉仕していく精神で、ビジョンを検討する。
より良い人材確保	様々な角度から求人募集を行うが、人材が集まらないことを受け、雇用の弊害となっている日曜勤務に関して検討していく必要がある。また、密に大学と連携を取り、より良き人材を派遣してもらえるように信頼関係を築いていく必要がある。 又、採用が難しいことを受け、非常勤なども含め、今いる人材の育成にも力を入れていくことが重要となってくる。

６．幼稚園関係者の評価

藤ヶ丘幼稚園の教育理念や保育内容については、特に指摘すべき事項はなく妥当であると認められている。外部有識者の指導の元、公開保育が継続して行われていることは評価できることであり、自分たちの保育を客観的に見直し、常により良い保育を目指していくことが大切である。又、小学校と連携を図ることは子どもたちや保護者の入学への不安を軽減するとともに、子どもたちの成長を幼児期という点で見るのではなく、つながりを持って見守ることが大切だと考える。

預かり保育や選択制給食の充実、駐車場の確保などこれまでの懸案事項が停滞することなく前に進んでいることは評価して良いことだと思う。保護者にとって信頼できる幼稚園となることが一番大切であり、その為の努力はこれからも必要であると思う。

又、幼稚園への就職希望者の学生が減っている中で、より良き保育を行うため人材確保は必須である。採用においては、出身大学などにとらわれるのではなく、一人ひとりの人柄や資質、保育に対する姿勢などを丁寧に見極めることが必要ではないかと思う。特に、キリスト教保育を実践していく上でも、特定の経歴にこだわるのではなく、それぞれの人が持つ個性や価値観を尊重しながら人材を見ていくことが大切である。又、少人数で構成された職員組織では、どうしても考え方や視野が狭くなってしまう可能性があり、そのため、外部の有識者を招いて意見を聞いたり、職員が積極的に外部研修へ参加したりするなど、園の中だけにとどまらず、広い世界から学ぶ機会を設けることも必要ではないかと思う。人材確保が難しい状況であるからこそ、獲得した人材を当園の保育理念にあった教員となるよう育成していくための組織強化も行なっていくべきである。

７．学校関係者委員会名簿

朝川　誠（理事）	上島成也（評議員）	岡山　佐江（卒園児）
三宅　千恵子（園児関係者）	東島　美穂（地域住民）	

８．財務状況

公認会計士、監査により適正に運営されていると認められている。

９．公開保育

日　　時：２０２５年6月２３日（月）

実 地 場 所：藤ヶ丘幼稚園　たんぽぽ組（３歳児）

外部有識者：広木克行（ひろきかつゆき）氏（神戸大学名誉教授）

ね　ら　い：・ドロドロ紙粘土の感触を楽しむ。

・トイレットペーパーの感触の変化を知る。

活　　動：・前回遊んだトイレットペーパー遊びを振り返かえる。

・タライの中でトイレットペーパーを小さくちぎる。

・タライの中でトイレットペーパーと水を混ぜていく。

・ドロドロになったトイレットペーパーの感触を楽しむ。

・タライに花紙を追加し、ドロドロ粘土に色がつく変化を楽しむ。

・カップや型抜き、スプーンなどを使い、ドロドロ粘土で遊ぶ。

・作ったものを机に置き、ドロドロ粘土遊びの振り返りをする。